

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為のNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

（研究分担者 沖田憲司・札幌医科大学 消化器・総合、乳腺・内分泌外科・助教）

研究要旨

本邦におけるがん登録の現状としては、昨年より開始された全国がん登録、主に外科系が中心として開始されたNCD、各学会における臓器がん登録などが混在しており、その有機的連携の在り方は未だに明らかではない。また、本邦においては各領域における登録体制に歴史的な相違があり、必要とされる登録内容にも相違があるため、在り方にも多様性が求められる。本研究では、データベース構築における問題を領域ごとに明らかとし、その解決方法を検討することにより、今後の適切ながん登録体制の在り方を研究する。

A. 研究目的

本邦におけるがん登録である、全国がん登録とNCD、臓器がん登録における有機的連携における問題点を抽出することを目的とする。

B. 研究方法

現時点で、NCDと臓器がん登録との連携に関して、一定の問題があると認識している学会および研究会の代表より、その問題点を提示して頂き、共通の問題点などを抽出し、今後の方向性に関して討議を行う。

（倫理面への配慮）

本研究において、特に倫理的に問題となる項目はない。

C. 研究結果

各領域におけるNCDの連携との問題点としては、臓器がん登録として必要な項目とNCDの登録項目の解離、同一疾患を複数の学会および研究会でカバーしている場合の扱い、また、最も大きな問題として資金の問題が抽出された。全国がん登録との連携に関しては、データ入力重複しないように、登録項目及びフォーマットの統一、また、入力を行う登録師の養成および制度化が望まれた。また、データの利活用に関して、学会もしくは研究会としてデータ活用できるシステムの構築、SEERの様に匿名化としてデータを提供する仕組みなどが求められた。

D. 考察

NCD登録は外科領域では悪性腫瘍の悉皆登録として大きな成果を上げているが、非手術症例の集積や、小児領域や婦人科領域など複数の学会および研究会がデー

タ登録に関与している領域、希少癌などにおいては、登録システム、また登録することによるメリットなどにおいて、未だに多くの問題がある。全国がん登録に関しては、正確な予後情報が得られる一方、学会、研究会としてデータを得ることができないため、現時点では連携の在り方すら模索できない現状であり、米国におけるSEERの様な、匿名化で活用しやすいデータベースが求められている。

E. 結論

現在の体制では、全国がん登録およびNCD、臓器がん登録の有機的な連携は困難である領域が多いのが現状である。更なる法整備もしくはデータの取り扱いに関する統一された解釈が求められる。

F. 健康危険情報

特記事項なし

（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G. 研究発表

1. 論文発表

2. 学会発表

特記事項なし

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特記事項なし